

「わたしは必ずあなたと共にいる。」(出エジプト記 3 章 12 節)

「あなたは一人じゃない」

イエス様がお生まれになるまでの出来事が記されている旧約聖書には、モーセという人が登場します。聖書をあまり読んだことがない人でも、杖を持ったおじいちゃんが海に手を向けると、海が左右に割れて道が出来たなんていう物語をご存じの方はいらっしゃるのではないのでしょうか。それほどまでに有名なお話なのです。しかし、実を申しますと、モーセはただ「海を割った人」というわけではありません。それは彼を通して行われた神様の御業であって、モーセというのはイスラエルという国が誕生するために、大きな役割を委ねられた人物なのです。神様に愛されたイスラエルの民は、当時エジプトの奴隷として捕らえられていました。そこで神様はモーセを選び出し、イスラエルの民を解放し、私が示す地まで導き出ささいと命令されたのです。

しかし、その時モーセは一人の羊飼いにすぎません。しかも年齢は 80 歳くらいでした。さらに、彼は非常に口下手だったと言います。能力、体力、社会的地位、どれを見てもイスラエルの民(約 200 万人)をまとめ上げ、エジプトという大国に立ち向かい、見事脱出させるにはふさわしく思えません。モーセもそのことを自分でよく分かっていましたから、「そんな大変なこと、私なんかにはできません！」と神様の命令を断ろうとしたのです。その時怖気づくモーセに向かって語られたのが「わたしは必ずあなたと共にいる」という御言葉だったのです。これは「あなたが語る言葉、なす業は私が与える。敵の攻撃、様々な困難があっても私が助け出す。だから安心しなさい。」という約束でした。モーセはこれを聞くと勇気が湧きました。自分一人では不可能でも、神様が一緒にいて全てを整え導いてくださるなら大丈夫だと分かったからです。

私たちも、自分には不相応と思えるほどに大きな働きが委ねられる時があります。辛いけれども、担わなくてはならないことがあります。そういう時、自分の能力や体力を見て「こんなの無理だよ」と逃げ出したくなるでしょう。もちろん、たとえ理不尽なことであってもやりなさいという事ではありません。ですが、「自分には難しいけど、その仕事は誰かがやらなくちゃいけない」と思えるならば、踏み出すことが必要になるかもしれません。ですから、そんな時は神様の助けを求めましょう。「神様、あなたが私を選んでくださったならば、あなたが私をいつも助けていてください。語るべき言葉もなすべき業も与えて下さい」と祈ってみてください。いつもあなたと共にいてくださる神様はその祈りに必ず応えて下さいます。そしてあなたは喜びの内に、困難を乗り越えることができるのです。

何か大きな出来事が聖書の中で起こる時、神様は知力、能力に長けた人を選ばれるのではありません。むしろ、欠けだらけで「自分には無理です」と自信なさげにつぶやいてしまう人を用いられます。それはその人が神様に頼ろうとするからでしょう。神様と共に何かをなそうとするとき、そこには驚くような素晴らしい出来事が起こるのです。知力や能力を鍛える事よりも大事なことです。それは神様が共にいてくださることを望むこと。そして神様は自らその約束をしてくださるのです。

チャプレン 吉川光太郎





2021年3月1日
認定こども園福光青葉幼稚園
園長 横山一乃

保育理念

受ける愛

与える愛

—愛されていることを知り・愛する者となるために—

「 希望をもって 」

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大予防を常に考えながら、日々の保育に取り組んだ一年でありました。また、世界に目を向けると、様々の国で紛争が絶えず、地球規模での気候変動や自然災害、コロナ禍での貧富の格差などがありました。このような不安や怖れの中、幼稚園では「なんとかして子どもたちの健やかな日常を守りたい」と願い、事あるごとに「子どもにとっての最善」を考え話し合い、工夫し実行して参りました。しかし、子どもたちの成長を喜び合う参観の時を、持つことが少なかったことが心残りです。家庭とは異なる園での子どもの姿や保育の場で自分の子どもや他の子どもがどのような経験をしているか知る機会は、保護者にとって貴重な時であったと思います。懸命になって取り組んでまいりましたが、工夫が足りなかったことや、至らぬ点がありましたならお許しいただきたいと思います。

大人は「例年通りの行事が出来ず、可哀そう」などと考えてしまいがちですが、しかし子どもたちは大人の思いとは異なり、一つ一つを喜び心と体を精一杯使って楽しんでいました。先日、恒例の「相撲大会」が行われました。午前には1.2.3歳児、午後には4.5歳児。トーナメント方式で勝負は進められていきました。本番に向かって家庭でコツコツと練習をしてきた子どもたちには、以前とは違った力が加わっていました。本番当日、当然勝ち進むであろうと思っていた子どもが負け、番狂わせに涙する光景もありました。悔しくて泣く子、頑張れと声援を送る子、誰一人として応援する輪から抜ける子どもはありませんでした。相撲大会の司会は、ゆり組が担当してくれましたが、行司の口上は堂々とした大きな声で立派でした。その他の役割もそれぞれが自覚的に行動していました。今年度は計画的な異年齢児との交流が少なかったとはいえ、小規模園の利点で何となく顔はわかる安心して生活できる関係になっていたことに、嬉しさを感じました。和やかな雰囲気の中で皆が一つのこと心に心を寄せ、応援していた姿に一年間の成長を感じ、就学、進級にふさわしい備えがされていることを神様に感謝しました。子どもたちは、「今」の時を喜びをもって精一杯に過ごす存在、一人ひとりがあるがままに受け入れられ、やりたいことが思う存分出来、満ち足りた思いでいる時、明日もきっと良いことが待っていると嬉しい気持ちになることでしょう。「わたしは必ずあなたと共にいる」という神様の約束は確かなものです。この言葉を信じ、大きくなったことを喜び、新しい生活に希望をもって歩みだしていただきたいと切に願っております。一年間、園に対する皆様のご理解ご協力に感謝申し上げます。